

境内の中ほどに、広場があるが、ここはその昔、八幡山護国寺があつた所である。昔は神仏混淆であつた。

のちに館ヶ岡来迎寺の末寺で、光福寺となつた。金色の薬師如来様が祀られてあつて、お釋迦様の大幅掛軸が本堂に安置されてあつた。

当時は戸数五十戸で、平和な村であつたが、ある年、疫病の大流行があつて多数の死者が出た。死者の中に、僧の名前もあつた。僧をなくした寺は荒れるにまかせた。

時代の変遷は廢仏毀釈となつて、寺は廢止されてしまった。荒寺は協議一決して、競売にすることになつて、私の祖父菅野次平が落札した。本尊の薬師如来は中屋敷の裏に薬師堂を作り祀り、掛軸は当時の世話人、半沢氏宅に保管されてある。

この広場は、豊年踊りの櫓を上げる場所となつた。盆や祭の夜は、近郷近在の若者の男女が集まつて踊りを踊るのに良い場所である。

志茂甚句は通称、「宵や——」と呼ばれ、「長沼甚句」よりもテンポが早く、太鼓も流暢な響きがある。

なおこの広場は神楽芝居が催された場所で、当地方の滝神楽(太神楽)、は、秋祭りには良くここで催され、色々な出し物や曲芸なども演じられた、村人たちのひとときの娯楽と興を誘つた祭も今は懐しい思い出であつた。

(話者 菅野精一)